

部課名		生涯学習部生涯学習総務課											
課の使命		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習部の総務担当課として、事務事業の執行計画の調整・進管理、連絡調整等を行い、組織が適切に運営できるようにします。</li> <li>・町田市固有の歴史資源の保護・維持・管理に努め、市民がそれらに触れられる機会・場所の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。</li> </ul>											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定				中間確認				年度末確認					
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	個別計画	町田の歴史資源の保存とPR	<p>①高ヶ坂石器時代遺跡(半場遺跡)の未整備部分の整備を実施します。</p> <p>②民有文化財(妙福寺本堂・祖師堂、青木家屋敷、清水寺アカガシ群落)の修繕が適切に行われるように支援します。</p> <p>③上記①②の整備状況をホームページで紹介する他、夏休み期間中に自由民権資料館と三輪の森ビジターセンターで行う子ども向けの展示の広報などを通じて、町田の歴史の魅力を市民に伝えるためのPRを重点的に実施します。また、市民に愛される自由民権資料館を目指し、自由民権資料館の愛称を募集し決定します。</p>	<p>①未整備部分の整備</p> <p>②民有文化財の修繕実施</p> <p>③-1 PRの実施数</p> <p>③-2 愛称の募集と決定</p>	<p>①整備完了</p> <p>②修繕完了</p> <p>③-1 3事業</p> <p>③-2 愛称の決定</p>	○	<p>①8月に整備工事契約を締結し、9月下旬から整備工事に着手しました。</p> <p>②民有文化財の修繕実施状況 ・妙福寺本堂と祖師堂の修繕に7月から着手しました。 ・青木家屋敷の修繕については、当初9月から開始する予定でしたが、工事内容を調整の上、11月から修繕に着手することとしました。 ・清水寺アカガシ群落のナラ枯れ防除対策(薬剤散布)を実施しました。その結果、防除対策を実施した樹木からは、カシノナガキクイムシの被害と思われる症状は発生していません。</p> <p>③-1 妙福寺本堂及び祖師堂の修繕概要について、市ホームページと自由民権資料館のX(旧Twitter)で紹介しました。</p> <p>③-2 6月に近隣の小・中学生及び来館者から、愛称候補の募集を行い、その中から7月に5つの愛称候補を選定しました。7/22～9/3「町田のおカイクさん」展において、愛称候補を掲示し、来館者に好きな愛称を選びシールを貼ってもらいました。その結果、308件の投票があり、最も投票数の多かった「まちれき」(153件)を自由民権資料館の愛称に決定しました。</p>	<p>①12月下旬までに整備工事を完了させ、1月から一般公開を開始します。</p> <p>②民有文化財の修繕実施予定 ・妙福寺本堂の修繕については、2月に修繕が完了します。 ・妙福寺祖師堂の修繕については、11月に修繕が完了します。 ・青木家屋敷の修繕については、3月に修繕が完了します。</p> <p>③-1 高ヶ坂石器時代遺跡の整備状況を市ホームページ等で紹介します。</p> <p>③-2 11月3日の開館記念日に合わせて、自由民権資料館の愛称の使用を開始します。PRも兼ねて、「まちれき」を印字した缶バッチの販売を館内で開始する他、ホームページ、SNS等でも愛称の周知を行います。</p>	<p>①高ヶ坂石器時代遺跡(半場遺跡)の未整備部分の工事を完了し、2月から一般公開を開始、3月に講演会を含む見学会を実施しました。</p> <p>②民有文化財の修繕(妙福寺本堂銅板屋根葺き替え、妙福寺祖師堂天井板等修繕、青木家屋敷茅葺屋根葺き替え、清水寺アカガシ群落ナラ枯れ防除対策)について、修繕が完了しました。</p> <p>③-1 遺跡や文化財の整備・修繕状況を市のホームページやX(旧Twitter)で紹介するとともに、観光まちづくり課の「スマホと歩こう!まちだウォーキングラリー」と連携した結果、多くの文化財がウォーキングスポットとなり、PRにつながりました。また、三多摩移管に関する取材対応時や小中学校への出張授業の際に町田デジタルミュージアムや町田の歴史・自由民権運動に関するPRを行いました。その結果、町田の歴史に関する新聞記事やインターネット等への掲載数は14件で、町田デジタルミュージアムの閲覧数は対前年度比45%増の54万件となり、より多くの方に町田の歴史に触れていただくことができました。</p> <p>③-2 夏休み期間中(7/22-9/3)に開催した自由民権資料館「町田のおカイクさん」展において、近隣の小・中学生から募った愛称候補5つのうちひとつを来館者に選んでいただいた結果、「まちれき」(153票)が最多となり、愛称に決定しました。愛称の募集・投票に関する広報を積極的に行った結果、観覧者1,708人に占める20歳以下の割合は40%となりました。その後、11月3日の開館記念日に合わせて、PRチラシ、ホームページ、SNS上で愛称決定の周知を行うとともに、「まちれき」を印字した缶バッチの販売を館内及び町田ソーリストギャラリーで開始しました。</p>	<p>①整備完了</p> <p>②修繕完了</p> <p>③-1 3事業</p> <p>③-2 愛称の決定</p>	C	C:目標水準を達成したためです。	<p>①②市有・民有とともに、指定文化財について、適切な維持管理を図るとともに計画的な修繕を実施していく必要があります。</p> <p>③-1 文化財の大切さを伝えるため、引き続き修繕や整備状況について積極的にホームページ等で情報を発信します。また、市民が町田の歴史に触れる機会を持てるよう効果的な提供方法を検討し実施します。</p> <p>③-2 自由民権資料館の愛称のロゴを作成し、企画展等で使用し幅広い世代に愛される施設を目指します。</p>

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
2	個別 計画	町田の歴史を 学ぶ機会の充 実	<p>①2022年度に本格実施した小中学校向け「出張歴史授業」の内容を更新します。また、2022年度に展示をリニューアルした自由民権資料館と考古資料室の他、市内各所の遺跡等を活用した授業プログラムを新たに作成し、小中学校に周知・実施します。プログラムは、「町田デジタルミュージアム」と連動させ、デジタルとリアル両面からのアプローチを図ります。</p> <p>②地域の歴史や史料の面白さを伝えるための市民向け歴史講座を、若い世代やはじめての方でも興味を持ってもらえるよう、リニューアルして実施します。</p> <p>③町田の歴史を学ぶことができるデジタルコンテンツの作成内容の検討を行い、2024年度実施する内容を決定します。</p>	<p>①新規授業プログラム作成数</p> <p>②-1 歴史講座の新規利用者率</p> <p>②-2 歴史講座の50歳以下の利用者率</p> <p>③デジタルコンテンツ作成内容の検討</p>	<p>①3プログラム</p> <p>②-1 40%以上</p> <p>②-2 30%以上</p> <p>③デジタルコンテンツ作成内容の決定</p>	○	<p>①学校側のニーズを把握するため小中学校に聞き取り調査を行いました。調査を参考に、授業プログラムの見直し及び追加などを検討しました。</p> <p>②-1 8月末時点での歴史講座を33回開催し、新規利用率は43%でした。</p> <p>②-2 歴史講座の前期講座50歳以下の利用率は20%です。</p> <p>③小・中学生や若い世代を主なターゲット層として、他施設の魅力あるコンテンツを参考に、手軽に活用できるデジタルコンテンツの検討を行っています。</p>	<p>①更新した授業プログラムを小中学校へ周知します。</p> <p>②引き続き、後期分の歴史講座を実施します。</p> <p>③検討案の中から2024年度実施するデジタルコンテンツを決定します。</p>	<p>①小中学校向け出張授業のプログラムを校長会・副校長会及びボランティアコーディネーターを通じて周知しました。実際に土器に触れたりデジタルミュージアムを活用するなど、小中学校向け出張授業を29件実施しました。これらを踏まえ、出張授業の内容を見直して、「施設見学プログラム」、「遺跡等見学プログラム」「町田の歴史プログラム」を新規に追加しました。更改した小中学校向け出張授業プログラムをホームページに掲載しました。</p> <p>②市民向けの歴史講座を「まち歴史講座」としてリニューアルし、アウトリーチ主体で薬師池公園、国際版画美術館などを会場に、スタートさせました。「古代の町田は武蔵野国？それとも相模の国？」「被災した紙資料を救う！文化財レスキュー体験ワークショップ」「めかい体験講座」など、合わせて29件の講座を実施しました。</p> <p>③2024年度に作成するデジタルコンテンツとして、「町田の養蚕について」の授業で使用する動画及び自由民権資料館の企画展の図録・講演会記録のデジタル版を作成することを検討・決定しました。</p>	<p>①3プログラム</p> <p>②-1 45.0%</p> <p>②-2 23.4%</p> <p>③デジタルコンテンツ作成内容の決定</p>	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	<p>①更新した授業プログラムを校長会・副校長会、ボランティアコーディネーター等を通じ周知し、出張授業を実施します。</p> <p>②市民向けの「まち歴史講座」について、新規の受講生も参加しやすくなるなど、内容を更新して実施します。</p> <p>③デジタルコンテンツを作成し、デジタルで町田の歴史が学べる機会を増やします。</p>
3	-	考古・歴史・民俗資料の整理	<p>①資料の保管環境の整備や資料のデジタル化について検討を行い、今後のスケジュールを作成します。</p> <p>②新たな「町田市史」編さんの際に重要となる、自由民権資料館所蔵の史料の整理を進めます。</p>	<p>①検討実施</p> <p>②新たな「町田市史」編さんのための重要史料群の整理率</p>	<p>①スケジュールの作成</p> <p>②55.0%</p>	○	<p>①考古資料の保管環境について検討し、5か年で考古資料室の整備を行うスケジュールを作成しました。資料のデジタル化については、緊急性のある考古資料に関するフィルム等をまずは対象とすることとし、どのくらいの数量があるのか現状を確認しています。</p> <p>②新たな「町田市史」編さんのための重要史料群の整理を進め、重要史料群の整理率は51.2%となりました。</p>	<p>①資料のデジタル化については、引き続き現状確認を行い、確認結果に基づき今後のスケジュールを作成します。</p> <p>②引き続き重要史料群の整理を行います。</p>	<p>①考古資料の保管環境について検討し、考古資料室の整備を5か年で行うスケジュールを作成しました。資料のデジタル化については、まずは緊急性のある考古資料に関するフィルム等を対象とすることとし、現状を確認した上で、今後のスケジュールを作成しました。</p> <p>②重要史料群の整理を目標どおり進めました。新しく整理した史料の一部を資料館の展示でも活用しました。</p>	<p>①スケジュールの作成</p> <p>②55%</p>	C	C:目標水準を達成したためです。	<p>①今年度の検討結果やスケジュールをふまえて、引き続き、資料の適切な保管環境の整備を進めていきます。また、自由民権資料館と三輪の森ビジターセンターの保管環境の整備も検討します。</p> <p>②重要史料群の整理を進めます。</p>

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評 価	評価の 視点	課題と対応
4	-	生涯学習推進体制の強化	生涯学習推進体制の強化を図るため、「社会教育委員」と「生涯学習審議会」について、それぞれの役割を整理します。	附属機関の整理・統合	各附属機関の役割の整理、附属機関委員からの意見聴取	○	社会教育委員の連絡会を開催し、「社会教育委員」と「生涯学習審議会」のそれぞれの役割の違いなどについて、意見交換を行いました。また、今後の役割整理について、事務局案を検討しました。	社会教育委員からの意見を踏まえつつ、他自治体における社会教育委員の状況等の調査を行い、今後の役割についての素案を作成します。	・他自治体の状況を調査するとともに、社会教育委員と生涯学習審議会のそれぞれの役割やあるべき姿等について整理・検討し、生涯学習及び社会教育についての審議をより効果的に行うことができるよう両機関を統合する案を作成しました。 ・この統合案を基に社会教育委員に意見等を聴取した結果、社会教育委員の職務を生涯学習審議会に取り入れるよう「町田市生涯学習審議会条例」を改正し、「生涯学習」に関する第三者機関の機能を一元化しました。機能の一元化にともない、社会教育委員の条例を廃止しました。	社会教育委員と生涯学習審議会の統合	A	A:当初の目標を大幅に上回る成果が上がったためです。	統合をきっかけに、学校を中心とした地域の学びがより推進できるよう、生涯学習審議会での議論を行います。
5	-	会議等の開催方法及び資料作成の見直し	会議等の開催にあたり、オンライン参加可能な形態での実施や、使用する資料の作成方法等を見直し、会議等の開催、資料作成等に係る事務量の削減を図ります。	複合機印刷枚	44,257枚以内 41,072枚以内 (2022年度比33%減) ※2022年度の複合機印刷枚数が確定したことにより、目標値を修正しました。	○	会議等の開催にあたっては、オンラインでの参加可能な形態で実施しました。また、会議等で使用する資料は、電子データにて共有をするなどし、複合機印刷枚数の削減を図りました。このことにより、9月末時点の複合機印刷枚数は19,541枚(前年同月比37.8%減)となりました。	引き続き、各取り組みを徹底し、資料作成に係る事務量及び紙媒体での資料印刷の削減を進めます。	附属機関の会議や労働安全衛生委員会の研修会など、オンライン参加可能な会議等の開催及び会議資料の電子データによる共有を行いました。 また、刊行物など印刷物の作成にあたっては、その必要性等を十分に精査し、必要最低限の部数に徹底しました。この他、PTAの活動紹介をする「のぞいてみようQ町田のPTA」の作成や学校施設活用検討に関わるアンケート調査では、GrafferやGoogleフォームなどデジタルを活用した回答手法を用いました。 これらの取り組みにより、紙資料の印刷枚数は35,944枚(2022年度比45.6%減)となり、目標を上回ることができました。	35,944枚 (2022年度比45.6%)	A	A:当初の目標を大幅に上回る成果が上がったためです。	引き続きオンライン会議の実施及び会議資料の電子データ共有を進め、紙資料の印刷を削減します。

部課名		生涯学習部生涯学習センター											
課の使命		学びに出会う機会と学習成果をいかす機会を提供するための中核施設を担います。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	計画 類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	中間確認		年度末確認				
							上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評 価	評価の 視点	課題と対応
1	個別 計画	学びの循環と ネットワークづ くりの促進	市民の学習機会をより充実させるため、 <b>さがまオンラインシニアと連携し地域連携プラットフォームの設置を進めます。新たな産学官の地域連携プラットフォームとの連携を進めます。</b> また、学んだ成果を活かす機会を充実させるため、登録者の指導力が向上するような研修を設けるなど、再構築に向けた検討を行います。さらに、コミュニティスクールでの利用が進むよう、連携を強化します。  <b>※大学等との調整により、事業内容が確定したため修正しました。</b>	① <b>地域連携プラットフォーム設置新たな地域連携プラットフォームとの連携</b>  <b>※大学等との調整により、事業内容が確定したため修正しました。</b> ②生涯学習ボランティアバンクの再構築に向けた検討 ③学校ボランティアコーディネーターへの効果的な周知の実施	① <b>設置連携開始</b>  <b>※大学等との調整により、事業内容が確定したため修正しました。</b> ②再構築案の策定 ③実施	○	①相模原・町田地域教育連携プラットフォームの設立に向け関係機関と調整を行いました。包括連携協定を締結し、自治体会員として参加しました。 ②登録者向け指導力向上研修の実施に向け、関係団体と調整を行いました。 ③ボランティアバンク紹介冊子の改定に着手しました。	①地域教育連携プラットフォームの2024年度事業について検討します。 ②登録者向け指導力向上研修を実施するとともに、運営ルールの見直しを行います。 ③紹介冊子を学校ボランティアコーディネーター等に配布し周知を進めます。	①2023年9月、町田市と相模原市に所在する大学等、自治体、商工会議所が参加する団体「相模原・町田地域教育連携プラットフォーム」を設立し、協定を締結しました。また、庁内に実施事業の要望調査を行い、児童・生徒を対象とした地域での教育事業への講師派遣や社会人を対象としたリカレント講座の実施などの要望をとりまとめました。その後、1月から団体と調整を開始し、2024年度からの事業実施に向けた準備を行いました。 ②登録者向け指導力向上研修を3月に実施するとともに、運用ルールについて、利用可能団体を、従来の市民団体、サークル中心から学習・教育事業を行う公的機関及び教育機関の利用を念頭に対象の拡大を行いました。 ③1月にボランティアバンク紹介冊子を改定し、子ども向けの指導ができる登録者を確認しやすいよう紙面を改め、2月から子どもセンターなどの子ども施設や学校ボランティアコーディネーター向けの周知を開始しました。	①連携開始 ②再構築案の策定 ③実施	C	C:目標水準を達成したためです。	地域教育連携プラットフォームの活用及びボランティアバンク制度の活性化に向けた取組を進めます。
2	個別 計画	生涯学習情報の デジタル化の推進と学習 相談体制の整備	多様な主体が実施している生涯学習情報を一元化し、学習相談で活用するため、データベース化に取り組みます。また、学ぶ意欲のある市民や地域団体の相談にきめ細かく対応し、学びにつながりやすくするため、学習相談コーディネートチームの発足に向けた検討を行います。	①データベースの構築 ②学習相談コーディネートチームの導入に向けた準備	①実施 ②導入案の作成	○	①データベースの構築に着手しました。 ②学習相談コーディネートチームの導入案の作成に着手するとともに、学習相談の試行を開始しました。	①生涯学習情報のデータベース化を進めます。 ②導入案を策定し、相談体制を確立します。	①生涯学習情報のデータベース化を進め、年間で約2,500件の情報を登録しました。他部署他機関の学習情報も含めてデータベース化したことにより、講座事業の整理・体系化の基礎資料として活用できました。また、市民から他の施設・機関が実施する学習事業について問い合わせがあった際も、速やかに案内することができ、市民サービスの向上につながりました。 ②学習相談コーディネートチームの導入案を策定し、12月から導入案に基づいた運用を試行しました。年間で約20件の相談に対応し、市内NPOが企画した「車いす街歩きイベント」を生涯学習センターとの共催で実施したり、学生団体の相談に応じ活動場所を提案するなど市民の学習機会の充実につなげました。	①実施 ②導入案の作成	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	構築したデータベースの活用の仕組み作りを行います。
3	個別 計画	学びの入口の 充実	2022年度に策定した「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、学びに出会う「きっかけづくり」に重点を置いた入門講座の充実をはかります。また、「市民大学」等の市民企画・参画型講座を整理し、市民参画の仕組みを整えるための検討を行います。	講座事業の整理・体系化	実施	○	講座事業の整理・体系化に向けて、生涯学習ニーズを把握することを目的とした町田ちよこっとアンケートを8月に実施し、290件の回答を得ました。	上半期に実施した町田ちよこっとアンケートの結果等を踏まえて、講座事業の整理・体系化を行います。	より多くの市民の生涯学習ニーズを把握することを目的として、上半期に実施した町田ちよこっとアンケートに加え、若者や生涯学習センターの利用者を対象としたアンケートも実施し、合計で449件の回答を得ました。アンケート結果で得た市民ニーズを反映して、2024年度に実施する新たな入門講座を企画しました。また、市民企画・参画型講座をはじめとする講座事業については、アンケート結果等の市民意見を踏まえ、講座事業の整理・体系化を行った上で、仕組みの再構築に向けた検討を行いました。	実施	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	体系化した内容で講座を実施し、効果検証を行う必要があります。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
4	重点 事業 プラン	新たな学びの 支援	新たに生じる社会的課題への対応を学ぶ講座や、デジタル初心者向け体験講座を実施します。地域に向いて実施する講座を充実させます。	①学習成果を今後、活かせると答えた人の割合 ②「なんでもスマホ相談室」を地域で実施した割合	①72% 86% ※現状値が確定したため修正しました。 ②20%	○	①7月末までに実施した、新たな社会的課題を取り上げた講座やデジタル初心者向け体験講座のアンケートで、学習成果を今後活かせると答えた人の割合は85.1%でした。 ②デジタル初心者向け体験講座として、9月までに「なんでもスマホ相談室」を生涯学習センターで24回実施するとともに、下半期から「なんでもスマホ相談室」を地域で実施するために、実施回数等の調整を行いました。	①新たな社会的課題を取り上げた講座やデジタル初心者向け体験講座を引き続き実施します。 ②「なんでもスマホ相談室」を、生涯学習センター及び地域で毎月3～4回ずつ実施します。	①デジタル初心者向け体験講座として、「なんでもスマホ相談室」を生涯学習センターで、全47回実施しました。また、各市民センターへ向く「出張！なんでもスマホ相談室」を12回実施し、合わせて約650人が受講しました。社会的課題への対応を学ぶ講座として、スマートフォンなどで起こる危険性を学ぶICTリテラシー講座を、デジタル関連事業者及び町田警察署と連携し実施しました。アンケートで、学習成果を今後活かせると答えた人の割合は88%でした。地域で実施した際には、「生涯学習センターに行くのが大変なので自宅近くで開催してくれて良かった」などの声が聞かれました。 ②地域で実施した際「生涯学習センターに行くのが大変なので自宅近くで開催してくれて良かった」との声が聞かれました。	①88% ②20%	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	引き続き、高齢者を中心に、デジタルデバイスに直面している市民は多いことから、「なんでもスマホ相談室」を多くの地域で実施します。並行して基本操作を習得された方向けに、LINEを活用する講座など、応用講座を実施する必要があります。
5	個別 計画	学びの場の整備	より多くの市民が利用しやすくなるよう、学習スペースや保育室の開放など、施設利用の促進策を検討します。	施設利用促進策の策定	策定	○	学習スペースとしての夜間の視聴覚室開放及び土日祝日の保育室開放について検討を進め、9月から試行を始めました。	学習スペースとしての夜間の視聴覚室開放及び土日祝日の保育室開放を正式実施します。	施設利用促進策を策定し、「土日祝日に保育室を開放」、「学習スペースとして夜間に視聴覚室を開放」、「個人学習や団体活動に利用できるリーススペースの拡充」、「施設貸出利用者限定であった館内フリーWi-Fiをリーススペース利用者にも開放」などを開始しました。保育室開放は1日10名程度の利用がありました。また、視聴覚室の開放及びリーススペースの拡充により若者の来館者が増えています。新規の施設利用者のうち、特に若者の利用者について、11月以降は月5件程度と増加しました。施設利用促進策により、新たな利用者を獲得し、施設利用の活性化に繋がりました。	策定	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	引き続き、市民が利用しやすくなるよう、施設利用促進のための検討を進めます。
6	経営 改革 プラン	運営手法の見直し	効率的・効果的な運営を目指すため、「行政でなければ担えない機能」と「民間のノウハウが活かせる機能」を整理し、業務委託の範囲拡大に向けた検討を行います。	新たな業務委託範囲の決定と導入に向けた準備	導入案の策定	△	2022年度に策定した「生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、事業の見直しに着手しましたが、導入事業の決定には至りませんでした。	今後、業務委託範囲の整理を進め、導入案を策定します。	生涯学習センター全業務の分類、事務量の算出、他事例の調査を行い、民間活力の導入対象となりうる分野の抽出を行いました。これに基づき、新たな業務委託範囲の導入案を策定しました。	導入案の策定	C	C:目標水準を達成したためです。	導入に向け、先進事例の調査や仕様の策定など準備を進めます。

部課名		生涯学習部図書館											
課の使命		誰もが、必要とする知識・情報を容易に入手することができ、安心して過ごせる環境を提供することで、人と人とのつながりあい知的で心豊かな生活の実現に寄与します。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	計画 類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進 捗 状 況	中間確認		年度末確認				
							上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評 価	評価の 視点	課題と対応
1	重点 事業 プラン	ワタシが主役 の図書館 づくり	目的や用事がなくても気軽に過ごせる地域の居場所をつくることを目指し、鶴川図書館を地域と「共に創り」「共に運営する」図書コミュニティ施設へと転換するとともに、一部業務委託化を行います。	運営団体の設立及び業務委託化	①設立 ②業務委託開始	○	運営団体設立に向けて、鶴川地区で読書普及や子どもの学習支援等に取り組んでいる方々により、設立準備会が立ち上がりました。4月から定期的に会議を開催し、団体の定款、事業計画、組織体制や施設レイアウトなどの検討を進めています。	10月に「図書コミュニティ施設運営団体」を設立し、施設レイアウトについて、10月のイベントで意見収集をします。ここで意見を集めて、2～3月中旬に施設改修を実施します。また、運営団体に委託の上、12月・3月にコミュニティ機能の強化を目的としたイベントを実施します。	①10月の「2023鶴川団地秋祭り」に出店し、模型を用いながら、新たな施設の使用方法や過ごし方、どのような活動をしたいかなど意見収集をしました。ご意見を踏まえ、2月～3月に施設改修を実施しました。また、11月に図書コミュニティ施設の運営団体である、「一般社団法人つるかわ図書コミュニティ施設運営協議会」が設立され、3月には主催イベントを実施し、運営団体としての業務を開始しました。 ②当初2026年度から民設民営化する予定でしたが、認知度向上、担い手の確保等の観点から、スムーズな施設運営を実現するため民設民営化の時期を2025年度に前倒しました。	①運営団体の業務開始 ②運営団体主催イベントの実施	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	2025年度の民設民営化へ向け、運営団体の体制を整えていきます。また、公立図書館とすることに伴い、町田市立図書館条例の一部改正を行います。
2	重点 事業 プラン	新たな 図書館様式の 推進	暮らしの中で本に触れる機会を増やすため、①「電子書籍サービスの充実」と、②「予約受渡し場所の拡充」を行います。	①年間貸出数 ②予約受渡し場所の新設	①33,000タイトル ②1箇所	○	①司書による選書を行い、毎月タイトルを追加しました。また、魅力的な電子書籍を紹介する特集を月替わりで展開しました。また、南市民センターまつりなどで、電子書籍のPRを行いました。 9月からは市立小・中学校の児童・生徒に電子書籍サービスIDを付与し、新たな読書の機会提供を行いました。これらの取り組みにより、保有タイトル数は約4,600タイトル、貸出数は約17,800タイトルとなっています。 ②5月23日から久美堂本町田店での予約資料受渡しサービスを開始しました。これにより予約受渡し場所は従来から1箇所増え、6箇所となりました。予約受渡し場所の利用促進に向け、南市民センターまつりにてPRを行いました。	①今後も電子書籍サービスを充実させるため、司書による選書を行い、毎月タイトルを追加していきます。また、魅力的な電子書籍を紹介する特集は月替わりの展開を継続していきます。また、11月の「玉川学園コミュニティセンターまつり」、12月の「まちカフェ!」、3月の「小山市民センターまつり」等にて、PRを行います。 ②電子書籍のPRと併せて、市民センター等のイベントにてPRを行います。	①司書による選書を行いながら、毎月タイトルを追加し、保有タイトルは約8,400タイトルとなりました。また、魅力的な電子書籍を紹介する特集を月替わりで展開しました。9月からは市立小・中学校の全児童・生徒に電子書籍サービスIDを付与し、学校で使いやすい同時使用が可能なコンテンツなどを揃え、新たな読書機会の提供を行いました。その他、以下9件のイベントで、PRを行いました。 ・「南市民センターまつり」 ・「堺市民センターまつり」 ・「成瀬コミュニティセンターまつり」 ・「忠生市民センターまつり」 ・「電子書籍サービス使い方講座」 ・「玉川学園コミュニティセンターまつり」 ・「まちカフェ!」 ・「小山市民センターまつり」 ・「木曾山崎コミュニティセンターまつり」 これらの取り組みにより、貸出数は約90,000タイトルとなりました。 ②5月23日から久美堂本町田店での予約資料受渡しサービスを開始しました。これにより予約受渡し場所は1箇所増え、6箇所となりました。また、予約受渡し場所の利用促進に向け、電子書籍と併せて、市民センター等のイベントでPRを行いました。これらの取り組みにより、全6箇所の予約受渡し場所での貸出数は約67,700冊となり、前年度比11.9%増となりました。	①90,000タイトル ②1箇所	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	①利用状況を確認しながら、特集によるPRを定期的に行い魅力的なコンテンツを追加していきます。 ②市民にサービス内容を広く周知するため、継続的なPRを行います。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
3	個別 計画	持続可能な図書館運営の構築	持続可能な図書館運営の手法の構築を目的とし、①「鶴川駅前図書館の指定管理者について効果検証」と、②「効率的・効果的な事務の見直し」を行います。	①効果検証の取りまとめ ②印刷量・郵送料	①実施 ②2021年度比減	○	①2022年度の鶴川駅前図書館の運営状況を総合的に評価するため、7月に「公の施設の指定管理者管理運営状況評価結果(評価表)」を作成しました。 ②図書館だよりや行事案内等について、年間の総印刷数と郵送料の確認、統合可否など状況の把握を行いました。また、各印刷物の発行回数や発行部数を見直し、前年同期比42.7%削減となりました。他にも、月ごとの郵送使用料(項目別)と予算残額を職員に周知し、郵送料削減のための意識向上に努めています。	①11月に図書館情報学の学識経験者を臨時委員に加えた評価委員会にて、評価結果の検証を受けます。委員会の結果を踏まえて効果検証を行います。また、2023年度も図書館全館で利用者アンケートを実施します。 ②引き続き各印刷物の発行部数等を見直すとともに、統合の可否について洗い出しを行います。また、送付先も見直し、印刷量及び郵送料の削減につなげます。	①2022年度の鶴川駅前図書館の「公の施設の指定管理者管理運営状況評価結果」を最高評価の「S」として取りまとめ、9月に市のHPに公表しました。11月に図書館情報学の学識経験者を臨時委員に加えた評価委員会で、評価結果の検証を受けました。また、11月～12月に鶴川駅前図書館を含めた全館で利用者アンケートを実施し、鶴川駅前図書館の総合満足度は満足・やや満足を含めて95.5%で、全館平均の94.8%を超えました。 制度導入の目的やねらいを十分に達成していることを踏まえて、効果検証の結果を取りまとめました。 ②印刷物については、「利用案内」などの配布物の統合やカウンターに設置している配布物の配布方法を見直し、印刷部数の削減を行いました。郵送料については、郵送物の精査や、メールの利用を進めることによるハガキの削減等を行い、郵送料を減らしました。	①実施 ②印刷量 2021年度比 32.7%減 郵送料 2021年度比 5.5%減	C	C:目標水準を達成したためです。	①効果検証を踏まえて、今後の運営体制を検討します。 ②印刷物の内容等を精査して、削減につなげられた状況を維持できるように取り組みを進めます。
4	個別 計画	第四次町田市子ども読書活動推進計画の推進	「えいごのまちだ」事業を推進するため、①「外国語の絵本・児童書の整備・活用」を進めます。また、②「中高生など若い世代向けに、読書のきっかけとなるイベント」を実施します。	①外国語の絵本・児童書の貸出冊数 ②18歳以下の方の利用登録につながる事業数	①13,000冊 ②5事業	○	①8月に英語多読講演会を開催しました。また、特集コーナーの設置や英語多読にも活用できる電子書籍「Read Along」や「MAGIC TREE HOUSE」などを充実させ、PRを行いました。8月末時点の蔵書数は約6,900冊、貸出冊数は約6,900冊です。 ②中高生向けのグループ学習室として、集会室の開放を行う、「おいおいキャレル」事業を実施しています。8月末時点で218名の利用がありました。また、中高生など若い世代向けに、読書のきっかけとなるイベントとして、以下の5事業を実施しました。 ・「ちょっぴり図書館員になってみよう！」 ・「一日図書館員」 ・「Yシネマ」 ・「まちクエ2023」 ・「飛んで火にいる夏のボドゲin中央図書館」	①11月に、「NPO多言語多読シンポジウム」を行います。シンポジウムでは多読初心者向けの講演会、関係団体による活動報告を行います。 ②中高生世代に向けて、11月から「ひとことPOPコンテスト」を実施します。	①8月に英語多読を続けるためのポイントを学べる、ステップアップ講座「もっと英語多読が楽しくなる！」を開催し、11月に「第10回シンポジウム「図書館多読への招待」in 町田」の基調講演として英語多読初心者向けの講演会を開催しました。シンポジウムでは図書館・学校図書館の関係者による活動報告とワークショップを行いました。2月には親子向けの英語読み聞かせ体験講座「子どもと一緒に英語絵本を読もう！」を行いました。蔵書数は約8,000冊、貸出冊数は約16,000冊となりました。 ②上半期に5事業(「ちょっぴり図書館員になってみよう!」、「一日図書館員」、「Yシネマ」、「まちクエ2023」、「飛んで火にいる夏のボドゲin中央図書館」)、下半期に1事業(「ひとことPOPコンテスト」)を行い、計6事業実施することができました。また、11月に中高生など若い世代へ向けたイベントの企画・運営を行う、同世代のボランティアグループ「図書館プランナー」が結成されました。	①16,000冊 ②6事業	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	①電子書籍サービスでの活用も含めて、引き続き英語多読の周知を行っていきます。また、保護者や子どもに英語絵本を読んでもらえるような事業を展開していきます。 ②中高生など若い世代自身がイベントの企画・運営を行う、同世代のボランティアグループ「図書館プランナー」が結成されたことで、中高生など若い世代向けのイベントにつながるよう、支援を行っていきます。

部課名		生涯学習部図書館町田市民文学館											
課の使命		市民が文学に触れあうきっかけとなる「文学の扉」として、文学の力を市民に伝え、豊かな心を育む場所となります。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	計画 類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	中間確認		年度末確認				
							上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
1	個別 計画	新たな時代に対応した「文学の扉」事業の推進	春に開催する、漫画家の今日マチ子が緊急事態宣言以降の日常を描いた「わたしの#stayhome 日記 2020-2023」展をはじめ、「ことば」や「文学」を柱とした展覧会を4回実施します。デジタル化の推進やアウトリーチ等、新たな時代に対応した手法を検討しながら、ことばや文学に関する事業を行います。また、小・中学校への出張授業を行い文学に触れあう機会をつくり出します。	①展覧会観覧者数 ②アウトリーチ事業件数 ③YouTube動画up数及び再生回数(累計)	①26,000人 <del>24,000人</del> ②15件 ③17件・17,500回 <del>16,000回</del> (累計) ※2022年度の実績値に従い修正しました	◎	①春季「今日マチ子展」、夏季「シグリカツヒコ展」の合計観覧者数は14,530人となり目標の55.9%になりました。 ②ショートショートを書き方講座を小学校7件、中学校4件、高校2件実施し、1,145人が参加しました。また、ショートショートコンクールのPRのため、和光大学ボプリホール鶴川と中央図書館で出張展示を行いました。その他、芹ヶ谷公園で出張おはなし会を実施し参加者は17人となりました。合計15件のアウトリーチ事業を実施しました。 ③2022年のショートショートコンクール表彰式の様子をまとめた動画2本と遠藤周作生誕100年記念動画、シグリカツヒコ展の紹介動画をYouTubeで公開しました。累計動画up数は18件、再生回数は18,000回で目標値に達しました。	① 秋は「遠藤周作生誕100年記念展」、冬は「少女たちのお手紙文化展」の開催を予定しており、年度目標の達成を目指します。 ② 玉川大学及び町田デザイン＆建築専門学校と協働で作成するガイドブックを使用した町田ゆかりの作家紹介など、引き続き出張授業を実施します。 ③ 目標は達成しましたが、YouTubeの効果的な活用を目指して更なる模索をしていきます。	①目標値には届きませんでしたが、春季の「今日マチ子展」と冬季の「少女たちのお手紙文化展」は、2020年からのコロナ禍をきっかけとした社会性の高い展覧会として、夏季の「シグリカツヒコ展」は体感・体験をテーマにした絵本展として、秋季の「遠藤周作展」は生誕100年の記念展として、それぞれ特徴のある展覧会を開催し、多くの観覧者を獲得することができました。 ②出張授業としては、ショートショートを書き方講座を13件、町田総合高校や成瀬台中学校でのキャリア教育の授業を2件、町田ゆかり作家の紹介授業を2件実施しました。出張展示としては、和光大学ボプリホールと中央図書館でのショートショートコンクールのPR展示に加え、玉川学園コミュニティセンターでの遠藤展PR展示を実施し、文学館の事業を多くの人に知ってもらう機会となりました。 ③遠藤周作生誕100年記念動画やショートショートコンクール受賞作品の朗読、講評動画が高い再生回数となり、目標を達成しました。今後も、YouTubeの効果的な活用を目指して更なる模索をしていきます。	①21,843人 ②20件 ③18件、20,132回	C	C:目標水準を達成したためです。	コロナによる自粛、制限は無くなりましたが、2020年からの3年間で展覧会や各事業に対するニーズは大きく変化しました。デジタルの世界が浸透している一方で、その場では体験することができないリアルなものに触れる価値も再認識されています。デジタルを有効に活用しながら、リアルなものに触れる魅力や機会をより大事にして事業を進めていくことが必要です。
2	個別 計画	つながることに重きを置いた事業の実施	新たな時代に求められる、地域や人とのつながりを生み出す事業を実施します。地域との連携による文学館まつりを実施するほか、昨年に続き玉川大学との協働事業を実施します。また、学校や東京町田・中ロータリークラブと連携をとりながら実施する「ことばらんどショートショートコンクール」など新たなつながりを検討し実施します。	大学や地域協力者、事業所等と連携して実施した事業数	6事業	◎	上半期に連携事業、7事業を実施しました。 ・玉川大学及び町田デザイン＆建築専門学校と連携し、中学生向け文学ガイド作成に取り組みました。 ・町田市文化芸術パートナーシップ協定を締結する音楽座ミュージカルと連携して、遠藤周作の代表作「わたしが・棄てた・女」の朗読会を実施しました。 ・劇団民藝と連携し、2021年に発見された遠藤周作の戯曲「善人たち」に関する講演会を実施しました。 ・町田総合高校と連携して、夏休みの子ども向けイベントを3件実施しました。 ・町田デザイン＆建築専門学校と連携して、ショートショートコンクール2022受賞作品展を実施しました。 ・文化振興課と連携して、芹ヶ谷公園で出張おはなし会を開催しました。 ・市内の小・中・高校と連携し、ショートショートコンクール2023を実施しました。	遠藤周作生誕100年記念事業の一つとして、桜美林大学との共催で「合唱物語 沈黙の声」を実施します。また、鶴川地区協議会と連携し、遠藤周作の作品と人生を紹介する講座を実施します。 地元町内会・商店会との共催で10月に「文学館まつり」を、3月に「文ッ字フリマ」を開催します。	16件の連携事業を実施しました。 ・玉川大学及び町田デザイン＆建築専門学校と連携した中学生向け文学ガイドの作成。 ・町田市文化芸術パートナーシップ協定を締結する音楽座ミュージカルと「わたしが・棄てた・女」の朗読会。 ・劇団民藝と2021年に発見された遠藤周作の戯曲「善人たち」に関する講演会。 ・町田総合高校と夏休み子ども向けイベント3件。 ・町田デザイン＆建築専門学校とショートショートコンクール2022受賞作品展。 ・市内の小・中・高校や東京・町田中ロータリークラブとショートショートコンクール2023。 ・桜美林大学と歌劇「合唱物語 沈黙の声」。 ・鶴川地区協議会と「遠藤周作展」および「お手紙文化展」に関する出張講座2件。 ・国際版画美術館とチケットの相互割引、常設展示室での遠藤展のPR展示。 ・玉川学園コミュニティセンターと遠藤展のPR展示。 ・町内会・商店会と実行委員会形式で「文学館まつり」及び「文ッ字フリマ」。	16事業	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	新たなつながりを模索する一方で、築き上げたつながりを保ちながら各事業の可能性を検討していく必要があります。



順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
3	個別 計画	中高生から20代の若い世代を対象とした事業の充実	小・中・高校生を対象に「ことばらんどショートショートコンクール」を実施します。また、受賞作品への審査員の講評をYouTubeで公開して更なる応募につなげる等、小学生から高校生まで幅広く応募してもらえるような効果的なPR方法を検討します。	ショートショートコンクール応募件数	1,000件	○	チラシや2022年度受賞作品集の配布、出張授業や出張展示の実施によりコンクールの周知を行いました。また、2022年度の表彰式の様子をまとめた動画2本をYouTubeで公開しました。その結果、コンクールへの応募数は1,002件となりました。	応募作品の審査を行い、受賞者を決定します。1月下旬に受賞者の表彰式を行います。	学校への積極的なPRにより、多くの学校で出張授業や夏休みの課題として活用されました。その結果、応募数が過去最高の1,002件となりました。	1,002件	C	C:目標水準を達成したためです。	さらに多くの方からご応募いただくために、より効果的なPR方法について検討する必要があります。
4	-	シティプロモーションのための情報発信の充実	SNSを多用する若い世代に文学館を知ってもらえるよう、TwitterとInstagramによる情報発信を行います。また、広報課と連携して町田市のシティプロモーションにつながるPR活動を行います。	Instagramの投稿数	60件	○	Instagramの投稿数は52件で目標の87.5%に達しました。フォロワー数は460人です。	引き続き、SNSを中心に広報課と連携して情報発信を続け、フォロワーの獲得に努めていきます。	展覧会情報を中心に積極的に情報発信に努め、目標を達成しました。フォロワー数は484人です。	74件	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	それぞれのメディアの特徴を理解した情報発信が必要です。関心をつなぎとめられるよう、継続的に発信するとともに、内容の充実を図ります。
5	-	業務の効率化	町田市第5次環境配慮行動計画に基づき消費電力の削減に努めます。貴重資料保存庫、収蔵庫の温度を、現状から夏季は+2℃、冬季は-2℃に設定することで消費電力の削減効果を検証します。	消費電力の削減	実施・検証 (夏季+2℃/冬季-2℃)	○	外気の温度を考慮して、5月に貴重資料保存庫・収蔵庫の温度を+2℃に設定しています。4月から9月までの使用量は2022年度と比較して約7%減少しました。	9月末または10月頃に標準設定に戻し、11月頃には-2℃に設定する予定です。	貴重資料保存庫・収蔵庫の温度について、22℃を標準値として外気の温度を考慮しつつ、夏季は+2℃、冬季は-2℃に設定しました。収蔵品について特に損傷はなく、2022年度と比較して使用料の減少率は4%でした。	実施・検証の完了	C	C:目標水準を達成したためです。	前例踏襲ではなく、見直しの意識を常につけていく必要があります。今後も適切な温度管理に努め、消費電力の削減に努めます。
6	個別 計画	遠藤周作生誕100年記念事業の実施	①秋に開催する遠藤周作展を中心に、小説家・遠藤周作や作品の魅力を感じてもらうための関連事業を実施します。また、芹ヶ谷公園「芸術の杜」パークミュージアムなど、近隣の施設と連携した事業を実施します。 ②事業の実施に際し、助成金申請や企業の協力を仰ぐなど、新たな財源の確保に努めます。	①記念事業の実施 ②財源の拡充	①展覧会1件 関連事業5件 ②新たな財源 確保1件/年	△	①展覧会に先立ち遠藤周作生誕100年記念イベントとして、講演会や朗読会などの関連事業を4件実施しました。また、記念動画を作成しYouTubeなどで配信しました。 ②「生誕100年 遠藤周作展」開催に際し、芸術文化振興基金の助成金申請をしましたが、獲得することができませんでした。	①10月21日から「遠藤周作生誕100年記念展」を開催し、関連事業を実施します。 ②桜美林大学と共催することにより、市費負担なしで歌劇「合唱物語 沈黙の声」を実施します。各種助成金については、2024年度申請に向けて研究を進めます。	①遠藤周作の生誕100年を記念して展覧会を実施したほか、近隣の施設と連携した講演会や朗読会などのイベントを17件、動画配信1件を実施し、遠藤周作や作品の魅力を生市内外に広くPRすることができました。 ②芸術文化振興基金の助成金を申請しましたが獲得することができませんでした。しかし、桜美林大学との共催により市費負担なしで歌劇「合唱物語 沈黙の声」を実施しました。	①展覧会1件 関連事業17件 ②新たな財源 確保1件	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	幅広く助成金の内容を研究し、申請する必要があります。また、文学館の強みを発揮できる企業・団体との協働による事業の拡充を進めます。